

---

## 『日本語・日本語教育』規定

---

### 1. 投稿資格

立教大学日本語教育センター員、日本語教育センター科目担当兼任講師、教育研究コーディネーターおよび当センターにおいて適当と認められた者とする。ただし、共著の場合、前述の投稿資格を有する者が1名含まれていなければならない。

### 2. 内容

日本語教育およびその関連領域。未発表の原稿に限る。

### 3. 使用言語

日本語または英語とする。

### 4. 書式

原稿は横書きで、MS Word 形式ないしテキストファイル形式とし、A4判の用紙（40字×35行）で、研究論文は20枚以内、実践報告及び調査報告は16枚以内とする。図表、参考資料、参考文献、注などもこの分量の範囲に含める。文献等の書き方は、『『日本語・日本語教育』執筆要領』に従うこと。

### 5. 要旨

和文（400字以内）の要旨をつける。キーワードは、和文論文は日本語5語以内、英文論文は英語5語以内を付す。

### 6. 採否の決定

原稿の採否は本誌編集委員会が決定し、本人に通知する。

### 7. 編集委員

編集委員会は、日本語教育センター員から選出された4名の委員によって構成する。編集委員の任期は1年とするが、再任は妨げない。

8. 本誌の発行は年1回とする。

9. ウェブサイトにおける公開

掲載論文の執筆者名、要旨、論文本文等を立教大学のウェブサイト等で公開する。  
ウェブサイトにおける公開は「立教大学学術リポジトリ運用指針」に基づくものとする。

10. 原稿の送付

次の①～③を MS Word 形式及び PDF データを下記のアドレスに送信すること。

①原稿本体（A4判）1部

②次のものを記した別紙1（A4判）1部

- カテゴリー（研究論文、実践報告、調査報告、のいずれか）
- 和文タイトル及び英文タイトル
- 著者名（和文表記とアルファベット表記）
- 和文要旨（400字以内。要旨末尾に括弧書きで文字数を記載のこと。）
- キーワード（原稿中の主要語句を5語以内）

③執筆者氏名、所属機関名、職位を記した別紙2（A4判）1部

E-mail: [cjle-kiyo@rikkyo.ac.jp](mailto:cjle-kiyo@rikkyo.ac.jp)

---

## 『日本語・日本語教育』執筆要領（和文論文）

---

### 1. 投稿原稿の構成

投稿原稿は、次の部分から構成されるものとします。この順序で書いてください。（著者名は除く。）

- (1) タイトル（和文・英文）副題は和文も英文も全角ダッシュ、中線（—）とする。
- (2) 要旨（日本語 400 字以内。要旨末尾に括弧書きで文字数を記載のこと。）
- (3) キーワード（原稿中の主要語句を日本語 5 語以内。）
- (4) 本文（図表を含む）
- (5) 注（必要に応じて）
- (6) 引用文献・参考資料一覧

### 2. 投稿論文のカテゴリー

#### (1) 研究論文：

日本語教育および関連領域について、十分に先行研究を把握した上で述べられているもの。

- A：先行研究を十分に把握した上でたてた仮説の検証を行っている実践的論文。
- B：先行研究を十分に把握した上でたてた仮説の検証を行っている調査論文。
- C：先行研究を十分に把握した上で行っている日本語教育に関する提案、提言。
- D：これまでに行われている研究、調査論文の総括および解説。

#### (2) 実践報告：

教育現場における実践の内容、効果等が具体的、かつ明示的に述べられているもの。

#### (3) 調査報告：

言語データ、史的資料、教育の現状分析や関連する意識調査の結果など、日本語教育にとって資料的価値が認められる報告が明確に記述され、結果の分析が行われているもの。

### 3. 投稿原稿の書式・分量

- 投稿原稿は「A4 判横書き、40 字× 35 行」で作成してください。原稿はワープロで作成し、図表を含め、できるだけ仕上げり紙面に近い形で原稿を作成してください。
- 分量  
研究論文 20 枚以内  
実践報告・調査報告 16 枚以内
- 本文（英数字含む）は明朝 10 ポイント、各章の見出しはゴシック 10 ポイント（太字にする必要はありません）とし、行間も統一してください。要旨、注、参考文献・資料で文字を小さく

したり、行間をつめたりしないでください。

- 句読点は「、」「。」で統一してください（表題も含みます）。
- 注は、脚注ではなく後注にし、注の番号は 1)、2)、3) …としてください。片半角括弧をつける。
- 表番号と表題は表の上、図番号と図題は図の下に記載してください。
- 原稿は片面印刷にし、両面印刷にはしないでください。
- 数字の書き方 1桁も2桁以上も半角とする。

#### 4. 資料・参考文献

##### • 資料

論文内に使用した他者の著作物（図版、写真等）は、投稿前に必要に応じて公開の許諾を得てください。

- 参考文献の書き方は、以下の基準に従うこと。

(1) 論文原稿の最後に、章番号をつけずに参考文献という見出しをつける。資料を載せる場合は、参考文献の後に、資料という見出しをつける。

(2) 参考文献は、日本語による文献（以下、日本語文献）と、外国語（英語、中国語など）による文献（以下、外国語文献）とを、それぞれまとめて、日本語文献、外国語文献、の順に記載する。

(3) 日本語文献は、第一著者の姓の五十音順に配列し、外国語文献は第一著者の姓のアルファベット順に配列する。

(4) 文中に引用する場合は以下の通りとする。

間接引用の場合（田中、2020）

直接引用の場合（田中、2020、56）（田中、2020、56-57）

- 各文献で記載すべき情報は、およそ次の通りです。

(1) 単行本<単著、共著>の場合：著者、発行年、書名、出版社名

(2) 単行本<分担執筆>の場合：分担執筆者、発行年、当該章の題名、編者、書名、章番号、出版社名、ページ

(3) 学術論文の場合：著者、発行年、題名、雑誌名、巻または号、ページ

(4) 学会発表予稿集（論文集）の場合：著者、発行年、題名、予稿集名（論文集名）、ページ

(5) 教科書の場合：著者、出版年、教科書名、出版社名

(6) インターネット情報の場合：著者（機関）、発行年、題名、URL、アクセス年月日

##### • 記載例

(1) 単行本<単著、共著>の場合 最後のピリオド「.」をつける。

横山紀子（2008）『非母語話者日本語教師再教育における聴解指導に関する実証的研究』  
ひつじ書房.

Anderson, J. R. (1983). *The architecture of cognition*. Cambridge, MA: Harvard University Press.

(2) 編著書中の論文の場合

松見法男 (2002) 「第二言語の語彙を習得する」海保博之・柏崎秀子 (編) 『日本語教育のための心理学』第6章 新曜社 97-110.

MacWhinney, B. (1989) Competition and connectionism. In B. MacWhinney, & E. Bates (eds.), *The crosslinguistic study of sentence processing* (pp.422-457). New York : Cambridge University Press.

(3) 学術論文の場合

宇佐美洋・森篤嗣・広瀬和佳子・吉田さち (2009) 「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響——文脈の中での意味推測を妨げる要因とは——」『日本語教育』140号、48-58.

小柳かおる (2002) 「Focus on Form と日本語習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』第5号、62-96.

Papagno, C., Valentine, T., & Baddeley, A. D. (1991) Phonological short-term memory and foreign-language vocabulary learning. *Journal of Memory and Language*, 30, 331-347.

(4) 学会発表予稿集 (論文集) の場合

迫田久美子・松見法男 (2005) 「日本語指導におけるシャドーイングの基礎的研究 (2) ——音読練習との比較調査からわかること——」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、241-242.

(5) 教科書の場合

日本花子・東京次郎・大阪美子 (編) (2006) 『上級者のための日本語 (2) ——読解編——』日本語教育書房.

(6) インターネット情報の場合

日本語教育学会 (2020) 「『日本語教育』投稿要領」

<http://www.nkg.or.jp/pdf/toukouyoryo.pdf> (2020年6月15日アクセス)